

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 光里苑	代表者	堂下 豪	法人・事業所の特徴	本人の思いを大切に、住み慣れた地域・自宅で暮らし続けられるように、困りごとへの、相談・助言・迅速な対応を心がけ、日々支援に努力を行っています。
事業所名	小規模多機能ホーム実恩	管理者	西ノ園 美智代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0	0人	3人	0人	1人	1人	3人	12人	0人	20人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域との交流・連携、関わり合いをまだよく理解できていない職員もいるので、改めて地域との関わり合い、関係性をしっかりできるようにミーティング等で学習し、そのうえで、地域との交流、民生委員さんとも情報の共有をし、利用者様にとっての『したい』を見つけるように努力する。	<ul style="list-style-type: none"> 実施できていない人が多い。 改善計画自体を理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の改善計画を理解・認識できていない職員もいる。 日々の業務の中で、頭に計画を意識しながら取り組むのは難しいのではないかと。 改善計画の記載（文章）が難しい。 小さなことから少しずつでも良いので、取り組み易い表現にした方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己評価」に取り組み易くするため、「今年度の改善計画」を周知する方法を検討し、一年間を通して認識して取り組める体制を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ感染終息後には、事業所も以前のように開かれた事業所にするために、いつでも気軽に立ち寄り、見学もでき、体験希望者には体験していただき、地域との交流も以前のようにできるように、お互い情報を共有し、関係性を保つ。そしてコロナ禍でも、地域と交流ができるように、何ができるかをこれから検討、調整していく。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、市来農芸高校の生徒様達が来てくださり、利用者様と一緒にフラワーアレンジメント作成を行った。 地域の会などの見学や、利用検討をしているご家族の見学受け入れ等は実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題はないと思う。(運営推進委員様より) 環境は良い評価ができる。臭いは無いし、これ以上良い環境の場所はない。(運営推進委員様より) 	<ul style="list-style-type: none"> 清潔を保ち、感染症対策に留意しながら、利用者様同士が交流しやすいようにレイアウト等も随時対応する 職員間でスピーチロックを注意しあい、利用者様にとって居心地の良い空間作りに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍が落ち着き、地域との交流が再開できるようになれば、引き続き、地域に向けて事業所の紹介や、スタッフと利用者様が一緒に地域の行事やイベントに参加し、地域との交流を深め、地域とのつながりを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域のお祭りなど、年1回の行事に参加できた。 毎月行われる地域の催しには、毎回参加させていただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域にパンフレットを回してもらった。(回覧板の活用など) 住民にとっても、相談できる場所を知っている方がメリットがあると思う。 「困りごと」と言っても、何を訊いていいのかわからないのか、何を発言してよいかかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の催し物全てへの参加を目指し、交流を強化する。 パンフレット等を活用し、「小多機」の機能の良さをアピールし、「困りごと」を相談しやすい環境を作る。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様の地域に向き、近隣の方や民生委員さんに、利用者様のこれまでの暮らし等の情報を聴き取り、以前と同じように自宅で生活できるように、地域とも協力して支援していく。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事には参加できた。 利用者様それぞれの地域との交流まではできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ドライブツアーに出かけたり、地域の行事に参加しているの、閉じ込めていることにはならないと思う。 近隣住民間でも、本当に困っているのかどうかはわからない。 少しでも情報があれば、対応に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅（地域）で生活を継続できるように、全員が「小多機を熟知」し、困りごとへの対応力を身に付ける。 職員間で「困りごと」の情報を共有し、迅速に対応する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を行い（書面も含む）、運営推進委員様方に地域での取組みや意見等をお聴きし、本年度も引き続き、地域で心配な方や困り事のある方の事例等、情報提供していただき、運営推進委員様方と一緒に問題解決に取り組み、いち早い改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとや問題となる情報があれば対応している。 事例検討までは実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員様や地域担当の役員の方で、気になった方などの名前を挙げ、提案したいと思う。 チラシなどを作成し、公民館に配布することも良いかなと思う。今、集落の民生委員さんだけが、他の集落の民生委員さんにもたまに参加していただいたり、資料をお願いするのも良いかな。と思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進委員の方々と地域と連携を図り、小さな問題が大きな問題となる前に、改善・解決できるように取り組む。 問題が挙がってきやすいように、事業所のPRを行う。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>コロナ感染が終息後は、事業所で行われている防災訓練に近隣の地域の方々にも参加していただけるように案内し、万が一の災害時にも、スムーズに対応できるように一緒に執り行えるようにする。また、地域で万が一の災害時（風水害等）には、光里苑が災害非難場所に可能な場合は、すぐに対応する。引き続き毎年行われている地域の防災訓練に、参加できるように時間調整し参加させていただく。また地域の方々にも事業所の防災訓練に参加していただけるように案内し、地域との連携が取れるように関係性を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での防災訓練は、利用者様と一緒に実施できている。 ・地域の防災訓練には参加できていない。 ・地域の方々と合同での防災訓練は、実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画は詳しいところまでわからない。 ・湊地区で午前中に防災訓練を行っている。 ・地域で一番高い建物なので、津波の時などは此処が避難場所になる。 ・エレベーターが使えない状況になると、高齢者が屋上上がるのは大変。 ・普段から訓練を行い、スタッフの行動を認識しておくのが大事。 ・地域の方々の協力がないと避難できない。協力をしたいと思っている。 ・普段平穩に過ごしているときは特に思い浮かばないが、他県で災害が起こった場合など、「此処の地域にはあの建物がある。一番頑丈だ」と頭に浮かび、頼りにしていることに気が付く。 ・地域の人に応援を求める（依頼する）体制を整えておく必要がある。 近隣工場の若い人達に、応援を求められるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に参加できる体制を作る。 ・万が一の場合に備え、地域の方々にも参加していただける防災訓練を取り入れる。
----------------------------	---	--	---	--